



# 「マスク／顔」

## 展示書籍のご紹介



### 1 顔を隠す仮面

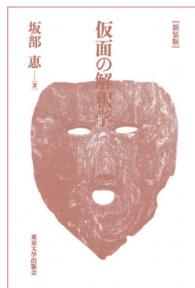


マスクは顔をおおって素顔や表情を隠す。みんながマスクをついている世界はちょっとした仮装パーティーのようにも見える。仮面やお面をつけるってどういうことだろう?

#### 『仮面の解釈学』

坂部恵／著 東京大学出版会

人は時と場合に応じてさまざまな仮面をもつ。とはいって、その裏には変わらない自己同一的な私自身が、つまり〈素顔〉があると信じている。坂部恵はこうした〈素顔〉信仰を近代人の病ととらえ、〈仮面〉の不思議なありように注目する。



### 3 表情と心の中の感情



表情が見えたなら相手の心の中の気持ちが分かるかもしれない。けれども、感情を隠して、表情を作ることだってできる。心と感情を考える。

#### 『きもち』

文／谷川俊太郎 絵／長新太 福音館書店

この絵本では、登場人物たちがどんなきもちなのかは書かれていない。そもそも、ほとんどの言葉がない。それなのに、シンプルに描かれたそれぞれの顔に、ふくざつな気持ちを読み取ってしまうはどうしてだろう?



### 5 きれいならいいのか！



きれい、かっこいい、カワイイ。顔のよしあしを評価する言葉はたくさんある。でも、もちろん顔だけでその人のことを判断することなんてできない。ルックス至上主義を考え直す。

#### 『少女マンガのブサイク女子考』

トミヤマユキコ／著 左右社

少女マンガのヒロインは、たいてい、かわいい。けれどもブサイクなヒロインだっている。美人が得で、ブサイクは損という単純な図式をはるかに超えて展開されるブサイク少女マンガの数々。



### 2 マスクの下の素顔



マスクなしに顔と顔を突き合わせて話をする。この当たり前のことが今では珍しくなった。顔って何だったのだろうか？

#### 『顔の現象学』

鶴田清一／著 講談社

美容師かカメラマンでもなかったら、他人の顔をまじまじと見ることはめったにできない。しかし、かすめ見ることしかできないその顔のちょっとした微笑みや揺らめきが、私をうろたえさせ、激しく動搖させる。〈顔〉とはどのような現象なのだろうか。



### 4 本当の私ってなに？



仮面が本当の私を覆い隠しているのなら、素顔が本当の私なのだろうか？

それとも、もっと別のどこかに本当の私がいるのだろうか？

#### 『私とは何か「個人」から「分人」へ』

平野啓一郎／著 講談社

「個人」という言葉は「分割できない」という意味らしい。けれども、旧友としゃべるときの私と職場での私が、分けた方がいいくらい別人、というのは変なことではない。分割できない本当の私なんていないのかもしれない。小説家が語る新しい人間観。



### 6 どうして化粧をするのか？



街中で見かける顔が素顔とは限らない。ひげをそり、口紅を塗り、人は化粧をして顔を作る。

どうして、人間は化粧をしてよそおうのだろうか？

#### 『お化粧しないは不良のはじまり』

山本桂子／著 講談社

「化粧をしない女学生はケシカラソ」(百年前の某女子高校長)。名門女学生ほど化粧をした戦前。化粧品会社が全国の高校で「美容講座」を行った高度経済成長期。実は「JJ」から生まれたナチュラルメイク。

明治から現代までの、個性的ではない化粧の歴史。



### 図書室の紹介



哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強したい方のための本まで、さまざまな哲学の本が9,000冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください。